

B-65 色彩嗜好に関する分析的研究 (第2報) 服装選択時における感情要因

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 第1報において、服装選択時の感情要因は、スマート、ポピュラー、モダン、オリジナルという因子で説明できることを知った。また、服装における色彩のイメージは、色彩そのものに特有の感情が結びついているのではなく、素材との関係があると認められたので、今回は服地を材料として調査し、成分分析法を適用して、検討することを目的とした。

2. 短大家政科女子学生(18~21歳)200名に対して、春のタウン・ウェア(ワンピース・ドレス)を示し、各自好みの服地を購入させた。購入した服地の色彩と素材とを、それぞれ30個および10個の形容詞により評定を求めた。服地の色彩については、JISZ 8721, 8723にしたがって、視感比色方法で測色をし、調査用カラー・コードにより大分類した。調査時期は'66年11月である。

3. 色彩について成分分析をおこなった結果、第1成分は、すべての形容詞に正の因子負荷量を示した。つづいて第2成分と第3成分についての形容詞と個人値との対応関係から、感情要因に対応する色群を知った。

素材についても同様の分析をおこなった結果、タイプと服装色とを関連づけることが可能となった。